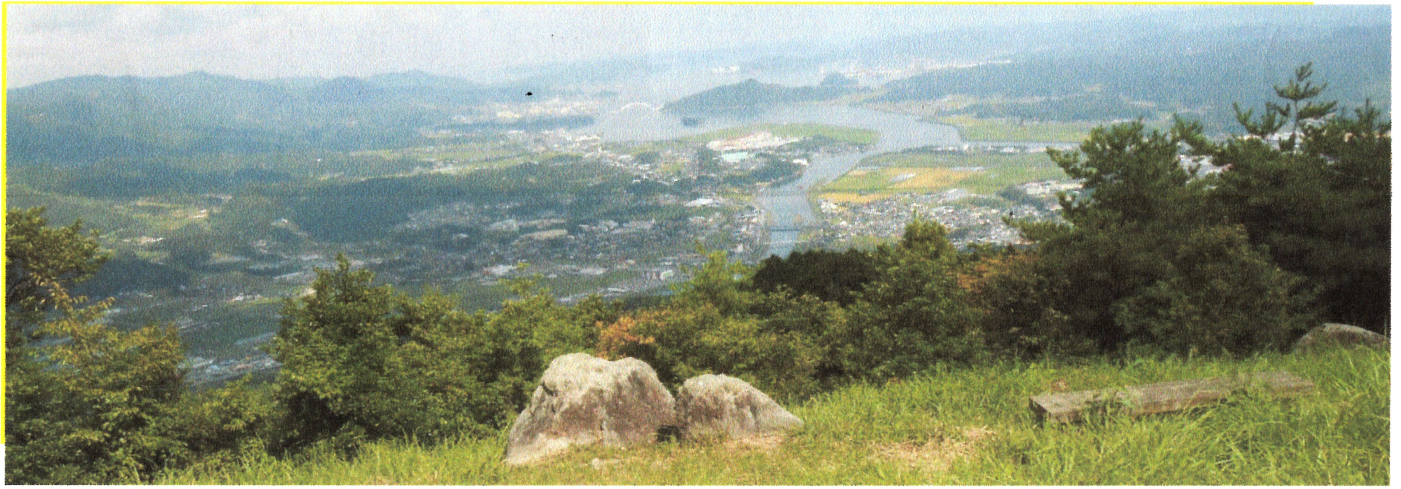




▲腰岳山頂からの展望／北望／伊万里湾



▲腰岳山頂からの展望／南望／左:青螺山、右:牧山



▲伊万里湾北岸の木須地区から眺める腰岳(右)と青螺・牧の山並み

腰岳:ハイキング気分で楽しむ山

山名 RQNo. 1 腰岳

ルート No.1 越ノ峠から周遊

登山口 RQNo. 10 越ノ峠

最寄駅

MR大木駅

登山口まで5kmの車道+林道歩きが必要

駐車場

越ノ峠

30台可能／公衆便所あり

(注) RQの意味

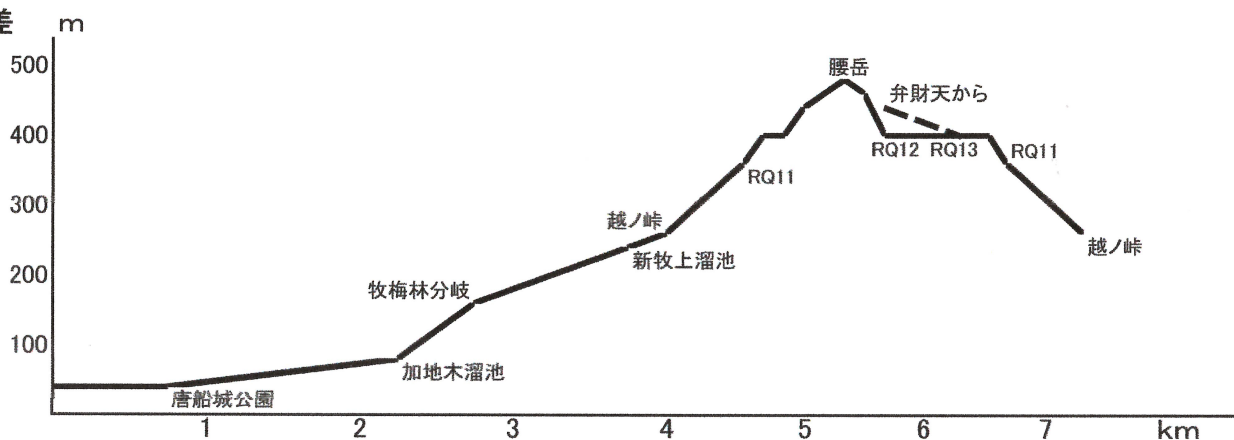
レスキューポイントの意味です。

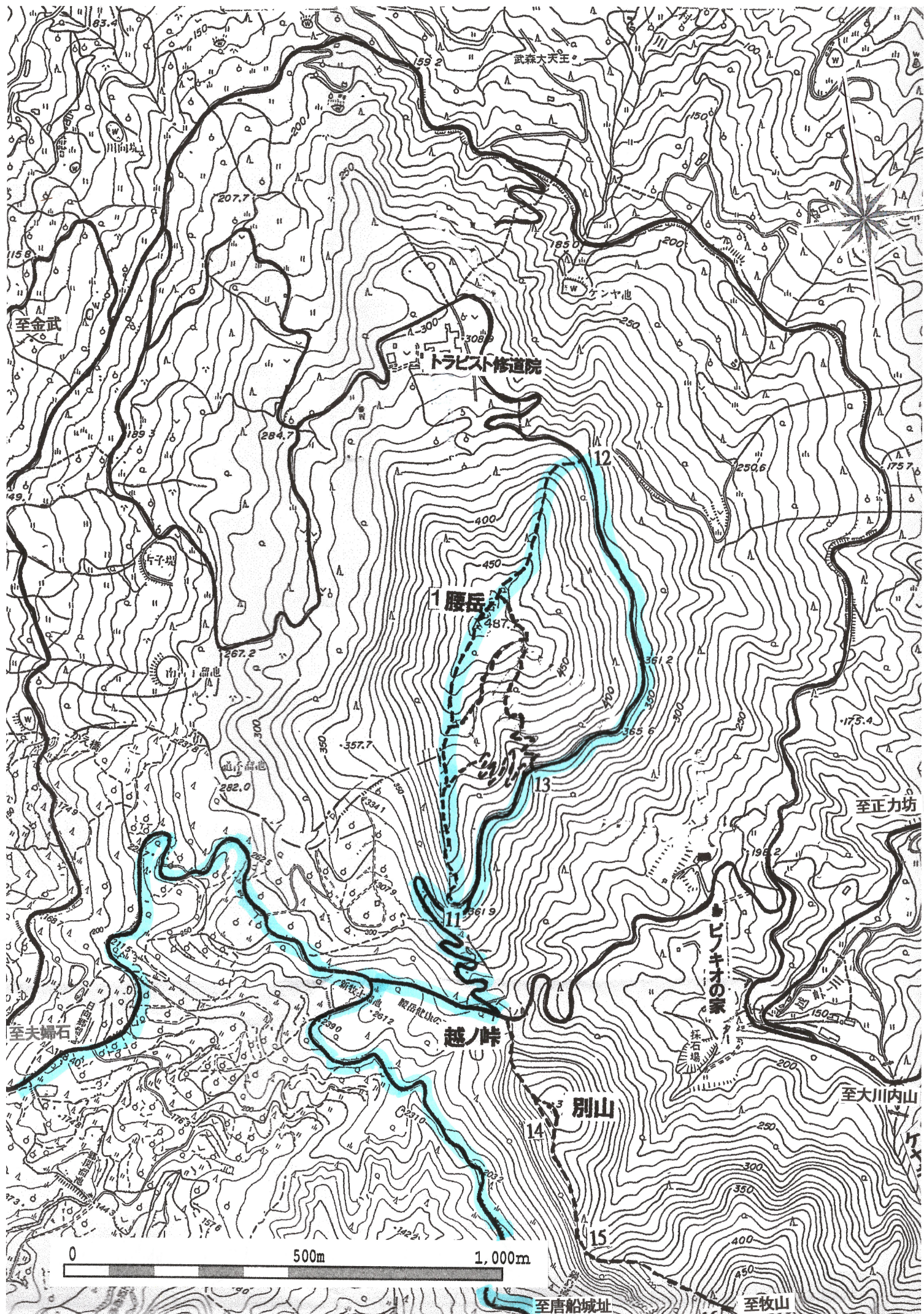
本来なら、RESCUEですから、短縮造語は「RC」とすべきですが、ここでは「RQ」として表記しています。

コースタイム

MR大木駅	10分	唐船城址公園	20分	加地木溜池	20分	牧梅林分岐	20分	越ノ峠 RQ10番
越ノ峠 RQ10番	20分	鋭角駐車場 RQ11番	30分	腰岳山頂 RQ 1番	30分	演習林道 RQ12番	20分	演習林道 RQ12番
演習林道 RQ12番	5分	鋭角駐車場 RQ11番	15分	越ノ峠 RQ10番				

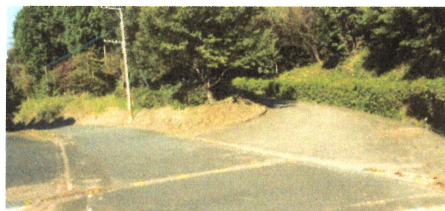
高低差







▲唐船城址への牧橋を渡り右折する



▲越ノ峠登山口



▲車道終点／右手奥に駐車できる

公共交通機関利用の場合

大木駅から北の唐船城公園を目指す。
大山小(学校)を右に見て、田口医院を過ぎて県道を右折し、
ほどなくして牧橋を渡って右に進む。正面が中世山城の唐船城址である。
山谷牧の集落を過ぎて、正面に牧山が迫ってきた頃、右手に見える1軒家が
軍馬番小屋である。見上げる別山の西斜面が江戸期の鍋島馬の牧場だった。
加地木溜池の堰堤脇を登る途中に分岐があり、右手の林道支線方面へ入る。
屈曲を繰り返して登り、牧山の急斜面を仰ぎ、林道に出る。
ここを北(左)へ進む。南(右)は龍門のある広瀬山へ下る。
林道を進むと、左手にため池、正面に腰岳がずっしりと見えてくる。
分岐があり、東(右)へいくと越ノ峠公園で、分岐から300mで越ノ峠に着く。
分岐を西(左)へ、ため池の畔を過ぎると下りだし、福祉施設「あすなろの里」、
二ノ瀬集落そしてMR夫婦石駅に下ってしまう。

マイカー入山の場合

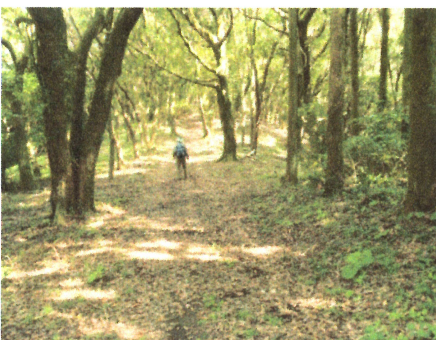
カーナビ設定:ピノキオの家(☎0955-22-2822)

国道202号から、MR夫婦石駅に近い共立病院への踏切を渡り、病院を左に見送り
右折して、すぐに左折。社会福祉施設「あすなろの里」前を通過して上る。
やがてトラピスト修道院方面と分ける分岐を、右の越ノ峠方面へとり、
車道を登って行く。即ち、前述最下段の下り道を逆行する。
右手に溜池がある分岐を左にとると、腰岳生活環境保全林の公園に到着する。
最後部が越ノ峠で、その手前から左へ鋭角に上るコンクリート道へ左折する。
狭い道は、山手からの落石をよけながら登り、途中右手に建物のある分岐を見送り、
さらに登って行くと、舗装終点である。ここを鋭角に左折して進むと広場があり、
車はここにを止めて登山開始となる。袋状の駐車場(RQ11番)である。

登山ルート



▲RQ11広場から広い登山道を登る



▲登山道もやがて変わり緩やかになる

越ノ峠から腰岳へ

越ノ峠は生活環境保全林事業で公園化されている。
公園の背後にそびえる左側のピークが腰岳である。右は別山で、
その先に牧山と続く。腰岳へは、公園の最上部(2山の峠)まで車道を進む。
峠を越して、車道をそのまま東(まっすぐ)へ進むと、大川内山方面へと下る。
ここが登山口(RQ10)である。右手の駐車場を見送り、左手の林道を上る。
コンクリート舗装の林道の3番目の屈曲から右手に伸びる林道は見送って、直進し、
さらに屈曲を繰り返して高度を上げていく。やがて平坦となり、舗装も途切れる。
ここの分岐を鋭角に左へ進むと、袋状の駐車場(RQ11)となる。8台ほど駐車できる。
そこから北面のヒノキ林の中の作業道を上る。
人工林を抜けると傾斜も緩やかになり、樅や松、灌木がある高原の道に変わる。
山頂まで260m距離表示標から東(右)に分かれる歩道は、弁財天祠へ行く。
これを見送り、緩やかな傾斜を登り詰めると、広い腰岳山頂(RQ1)に着く。
かつて、この山頂は灌木が生い茂り、展望もほとんど無かったが、
今は灌木も伐採されて、北西の伊万里湾方面が広がり、眼下に有田川が流れている
山頂に戻り、南方面へ目を転じると、牧山・青螺の峰への展望も開ける。
山頂一帯は草原の遠足広場である。北尾根には東屋もあるが「使用禁止」だ。
松林の中に遊歩道が作られ、東の尾根には弁財天が祀られている。
この弁財天から南東方面へ、演習林道RQ13へ下る歩道もある。



▲山頂から地藏尾根を下る

上って来る登山者には声をかけよう



▲伊万里農林高の演習林道に下り立つ

腰岳から地藏ルート経由で越ノ峠へ

下山路は北尾根についている。

崩壊寸前の東屋を左手に、右手に電波中継基地を見て下り、人工林に入る。

電波基地のフェンス柵沿いに東(右)に歩けば、弁財天祠に着き、

そこから東へ下ると、10分でRQ13番の林道に下り着く。

下山道は無線基地フェンス脇を北(まっすぐ)進み、植林地の地藏尾根を下る。

ほどなくして3体の地藏尊があり、そこから下山道の傾斜は急になる。

ワイヤとロープのザイルも張られている。10分ほどで林道に下りつく。RQ12番である。

作業林道を北(左)へ進むと、20分ほどでトラピスト修道院に着き、

そこからMR金武駅方面へは、林道を5kmほどを下る。

越ノ峠へ戻るにはRQ12番から、南(右)に作業林道を歩く。

一帯は伊万里農林高校の演習林で、卒業記念樹エリアである。

そこを過ぎて湾曲した谷部に、山頂東側の弁財天からの歩道が下りている。

この歩道は谷の左岸側についているが、右岸側にも歩道が上っている。

後者の歩道は、灌木帯で見送った最初の歩道である。

この谷部から5分で、最初の林道分岐点につき、右手に進むと駐車場に戻り着く。

舗装道をまっすぐ下れば、越ノ峠公園である。

みどころ



黒曜石

第三紀(約300万年前)の黒髪火山の噴火活動は、陶石のほか、黒曜石も産出しました。

陶石も黒曜石も、原石は共に石英粗面岩(流紋岩)ですが、

激しい熱作用後の冷め方がゆっくりか、急速かで、この2つの鉱石に変化した、と考えられています。前者が陶石で、後者が黒曜石です。

黒曜石は、伊万里湾に近い腰岳山城から、多く産出しています。

即ち、黒髪火山が陥没したときに伊万里湾方面から流入した海水が、冷却の要因。

黒岩峠(西有田町)や乳待坊(山内町)でも石灰岩層から貝類の化石が出土し、海水が流入したことを証しています。

黒曜石は、旧石器や縄文期に矢じりや石斧などに使用されていました。

登山道でも、RQ11から山頂にかけて、黒い光沢のある石粒を見つけることができます。

腰岳山頂で西の国見連山、北の伊万里湾、南の牧山や青螺山を眺めながら

そんな太古の営みを偲ぶのも楽しいものです。



◀ 登山道の地肌に黒曜石を見ることができる



ヒロハコンロンカ

アカネ科

黒髪山系の植物：111ページ

植生 林縁に生える

樹高 1～3mの落葉低木

葉 茶色の若葉

花 白い萼片が花弁状となり、中央に星状の黄色花をつける

開花期：7月

和名の由来

白い装飾弁を中国崑崙山の雪に見立てたもの。南方系の珍木



ヤマザクラ

バラ科

黒髪山系の植物：132ページ

植生

樹高 15m程度の常緑高木

葉 若葉は茶色で、展開は著しい

花 開花期はソメイヨシノより少し早く、茶色の若葉の展開と同時に開花し始める

種子

和名の由来



ヤブラン

ユリ科

黒髪山系の植物：74ページ

植生 林内や林縁

樹高 20～50cmの常緑の多年草

葉 線形で根生する

花 淡紫色で総状に多数付く。白花も見られる。開花期：8月

種子 秋に光沢のある黒色球形となる

和名の由来

葉の形から藪に生えるランと名付けられたのだろうが、属科はユリ科である

エナガ

フィールドガイド「日本の野鳥」：264ページ

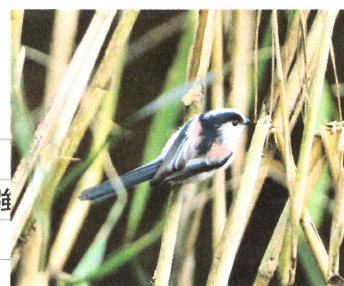
大きさ 約14cmで、翼開長は16cmで、スズメより小さい

習性 九州以北の低地から山地の林に留鳥。群をつくる習性が強く、春先には樹の幹に縦にとまって樹液を飲むことがある。

特徴 体は小さくて尾は長く、嘴は短小。

時期 留鳥で通年

啼き声 チーチーチー、チャツチャツ、ツリリリ、ジュリリなどと鳴く。



写真

日本野鳥の会佐賀県支部
加藤芳隆

ハイタカ

フィールドガイド「日本の野鳥」：178ページ

大きさ 雄：32cmでハトぐらい、雌：39cm、翼長：61～79cm、

習性 本州以北の山林で繁殖し、冬は全国的にみられる。

特徴 雄の上面は暗青灰色で尾に黒帯、下面は白地に黄赤褐色の横斑
雌の上面は灰褐色で尾に黒帯、下面は白地に褐色の横斑
オオタカに似ているが、はばたきは更に速い

捕食

啼き声 キーキーキーキーキーと鳴く

